

とちぎ 米麦改良

令和5年1月
第128号

(公社)栃木県米麦改良協会
宇都宮市平出工業団地9番地25
☎(028)616-8700



新年のごあいさつ

～飼料用米多収品種への対応～

(公社)栃木県米麦改良協会 代表理事会長 菊地 秀俊

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。

昨年は、繰り返されるコロナウィルスの感染拡大、ロシアのウクライナ侵攻等が、日本の社会経済に様々な影響を及ぼしました。特に外食需要低迷に伴う主食用米の需要減退、肥料・飼料・燃油の価格高騰は、県内農家の経営を大きく揺さぶりました。

この困難に立ち向かうべく、我々農業団体は、県と一体となって飼料用米への作付転換や各種支援策の活用を強力に進めて参りました。皆様の御協力により、主食用米需要回復のきざしも見え始めてきましたが、令和5年産についても引き続き主食用米以外への作付け転換に協力いただきたいと考えております。

このような中、国は、12月に令和6年産から8年産にかけて飼料用米多収品種以外の支援水準を段階的に引き下げることを決定しました。

本県の飼料用米の面積は約15,000ha (R4) ですので、多収品種に転換しないと、3年間で総額90億円、県内農家の収入機会が喪失することとなります。 (関連記事2ページ)

本県では、これまで「あさひの夢」等の主食用米を飼料用に供することによって大きな成果を上げてきましたが、多収品種への大転換を図らざるを得ない状況にあると考えております。

特に、稲種子の生産を担っている当協会としては、今年中に、令和6年産多収品種の種子を生産する必要に迫られており、現在、急ピッチでその準備を進めているところです。

品種は、種子確保が可能な「夢あおば」等の品種とし、価格面、品質面の観点から、県内での生産体制確立を検討しています。

各JAにおかれましても、「農家所得の最大化」と「コンタミ等のリスク回避」を両立させながら、荷受け体制や栽培技術等の検討を進めていくこととなりますので、農家の皆様方の特段のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

今年が皆様にとりまして、幸多い年になることを心からご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

※「にじのきらめき」、「ほしじるし」は飼料用米(多収品種)の支援対象にはなりませんのでご注意ください。

令和 5 年産以降の飼料用米への支援について (速報)

主食用米の減額イメージ

令和 5 年産	令和 6 年産	令和 7 年産	令和 8 年産
数量に応じて 5.5～ 10.5 万円/10a ※網目 1.7 以下 は数量にカウ ントせず ※稲わらの利用 状況や品代等 を報告	15,000ha×1万円 =15億円	15億円	15億円
	数量に応じて 5.5～ 9.5 万円/10a	15億円	15億円
		数量に応じて 5.5～ 8.5 万円/10a	15億円
			数量に応じて 5.5～ 7.5 万円/10a

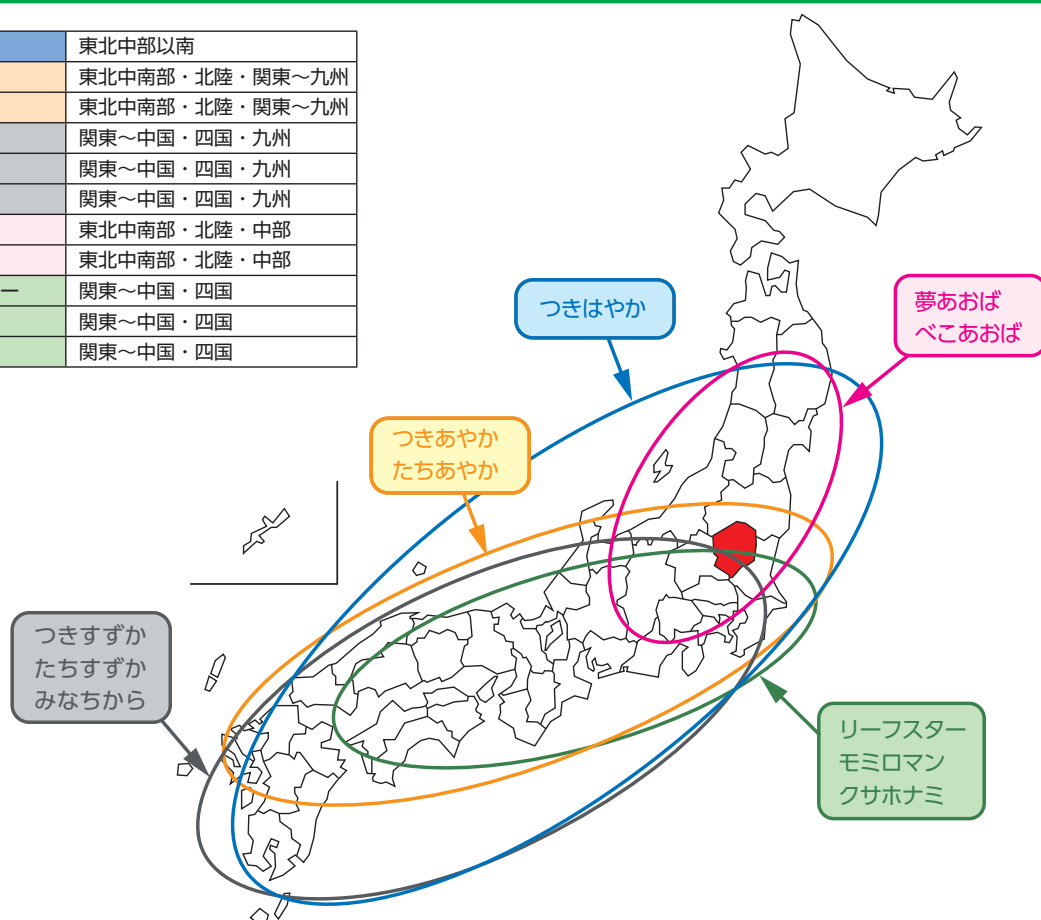
3年間で
15億円×6
=90億円

※ 飼料用米（多収品種）は、令和5年産の支援額が維持されます。

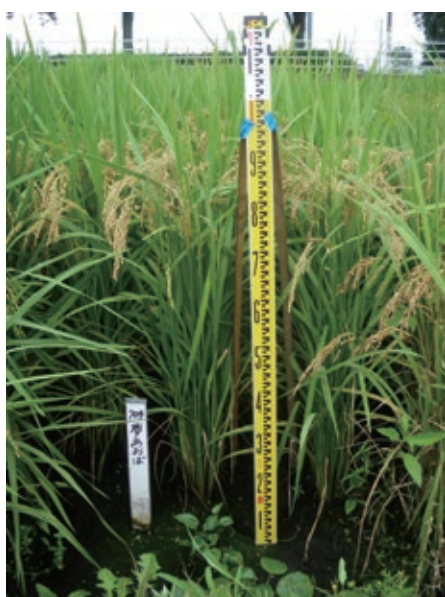
多収品種：飼料用に開発された多収品種で、主食用米と比べ、播種量が多い（3.5Kg/10a程度）、浸種温度に敏感、稲こうじ病がやすい等の特徴があることから、令和5年中に各地域において、栽培管理や収穫期等の特性を把握しておく必要がある。（展示ほ等の設置）

飼料用イネ品種の地域適応性

つきはやか	東北中部以南
つきあやか	東北中南部・北陸・関東～九州
たちあやか	東北中南部・北陸・関東～九州
つきすずか	関東～中国・四国・九州
たちすずか	関東～中国・四国・九州
みなちから	関東～中国・四国・九州
夢あおば	東北中南部・北陸・中部
べこあおば	東北中南部・北陸・中部
リーフスター	関東～中国・四国
モミロマン	関東～中国・四国
クサホナミ	関東～中国・四国



夢あおば 栃木県の奨励品種 (平成29年～)



特徴

- 「コシヒカリ」よりも早い早生熟期で、東北中南部・北陸・中部向き。
- 茎葉収量が高く、草型は穂重型。
- 耐倒伏性は極強で、湛水直播栽培に適する。
- 脱粒性は難で、縞葉枯病に抵抗性がある。

栽培ポイント

- 多肥栽培が適するが、極端な多肥には留意する。
- いもち病に見かけ上は強いが、抵抗性の変化には注意を要する。
- 湛水直播栽培で多収である。
- 耐冷性が弱いので、冷害の常襲地での栽培は避ける。
- 苗箱への播種量は多めにする。

移植日	出穂日 月日	成熟期 月日	稈長 cm	粗玄米重 kg/10a	倒伏 0-5
5/13	7/23	9/15	86.1	822.2	0
6/13	8/23	10/14	100.8	561.5	1.7

注) 農業試験場(宇都宮市)における試験結果(H27) [施肥量: 窒素12kg/10a]
倒伏: 0(無)―5(甚)

令和4年産米の生産・集荷・販売に向けて

全農栃木県本部 米麦部

1. はじめに

日頃より本会米麦事業につきまして、多大なるご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和4年産主食用米は、令和3年産に引き続き生産者や集荷業者・団体が自主的な判断により「需要に応じた生産」を行い収益性の向上がはかれるよう、県農業再生協議会は市町農業再生協議会へ「県・市町の主食用米の作付参考値（面積）」を提示しました。

J Aグループは、引き続き「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る米穀事業改革の一環として、「実需者への直接販売」、「買取販売」の拡大等へ取り組みを進めています。

令和4年産を取り巻く需要環境は、コロナ禍を起点とした需給緩和が継続しており、いまだ需給が均衡する状況にはありません。令和5年6月末の民間在庫は191～197万トンを見込んでいます。

令和6年6月末民間在庫の適正化に向け、令和5年産主食用米は令和4年産同程度の作付継続に取り組むことが必要となります。

私ども全農栃木県本部では、J A、行政、関係機関とともに需給均衡を図り生産者手取りを確保するという視点をもってとり進めてまいります。

2. 令和4年産の作柄概況

全国における主食用米の作付面積は125万1千ha（前年比▲5万2千ha）となりました。田植え期以降の天候に恵まれ北海道、東海以西は全粳数が平年以上に確保されたものの、東北、関東、九州が天候不順により登熟が平年を下

回る地域があったことから全国の作況指数は「100」の「平年並み」、予想収穫量は670万トンとなりました。

本県における主食用米の作付面積は46,100ha（前年比4,500ha減）となりました。8月中旬から9月上旬の日照不足により作況指数は「97」の「やや不良」、予想収穫量は24万5千トン（前年比▲3万3千トン）、となっています。

3. 令和4年産米の集荷・販売状況

「平成4年産生産・集荷・販売方針」及びその具体策に沿って、J A・全農が一体となり、集荷結集に取り組み、全農への主食用米の販売委託数量は7万トンを見込んでいます。

販売面では、複数年契約を主とした事前契約取扱数量の上積み、実需者への直接推進により栃木米を安定的に使用する取引先への供給拡大と新規販売先の開拓に取り組み、需給や作柄変動に左右されない固定実需のさらなる結び付けをはかりながら販売を進めています。

特に消費宣伝・販売促進活動では、web媒体を活用した広告宣伝・ネット販売、キャンペーン等によるブランドイメージ・

認知度向上を図り、指名購買の拡大に取り組みます。



「とちぎ米」TV-CM
令和4年9月20日から放送開始



NewDays でとちぎの星を使用した
おにぎり販売 令和4年11～12月

4. 令和5年産をめぐる情勢

令和5年産米の作付は、令和4年産米の生産量が670万トンと全国需要を下回りましたが、人口減少・高齢化やコロナ禍の影響による需要の減少や生活環境の変化。これに加え、過年産の持越在庫が大量に発生した影響により需給が緩和傾向にあります。令和6年6月末民間在庫を需給が均衡するとされる水準（180万トン程度）とするためには、生産者や集荷業者・団体が一体となり令和5年産米主食用米を令和4年産同程度の作付継続に取り組むことが必要となっています。

5. 令和5年産米生産・集荷・販売の取組

令和5年産米生産・集荷・販売については、県農業再生協議会と連携し県および市町別作付参考値（面積）を踏まえ、令和4年12月に策定した「令和5年産米にかかる基本方針」や、集荷販売については「令和5年産生産・集荷・販売方針」に沿って取組みます。

引き続き令和5年産において、「需要に応じた生産」、複数年契約など事前契約にもとづく「契約的生産・販売」を進め、広告宣伝・販売促進により、JAグループ栃木の栃木米の認知度および指名購買率の向上を目指していきます。

さらに、生産者手取りの最大化に向け、国の「農林水産業・地域の活力創造プラン」に対し、「実需者への直接販売」や「買取販売」の更なる拡大等に取り組めます。また、主食用米以外について、引続き水田フル活用の視点による需要に応じた水田活用米穀の作付を推進し、主食用米の需給と価格の安定および水田営農の持続性を基本として取り組めます。現状と課題を踏まえ、生産者・JA及び実需者・消費者へ、しっかりと向き合い提案してまいります。引き続き、皆様方のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



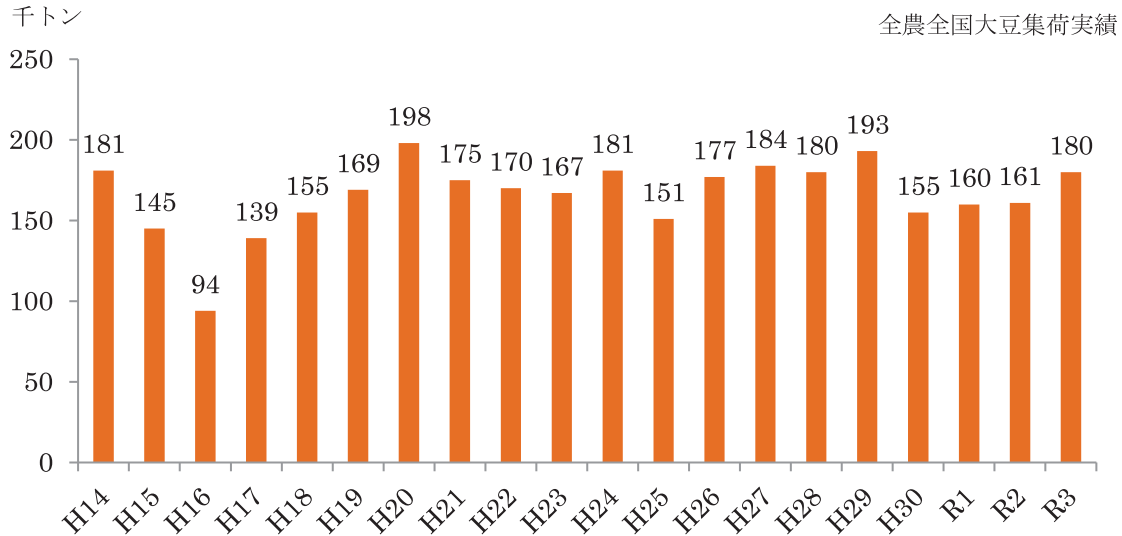
国産大豆生産情勢

J A 全農とちぎ 米麦部

1. 令和3年産大豆の集荷結果について

令和3年産の本会全国大豆集荷数量は約180千トン(前年比113%)となりました。北海道・東北においては順調に生育し前年を上回る集荷実績となりました。九州地区では大雨や台風による冠水や台風等の生育被害も受け集荷数量は生産計画と横ばいで推移しています。

栃木県では作付面積、集荷数量共に横ばいとなり約2.8千トンにとどまりました。

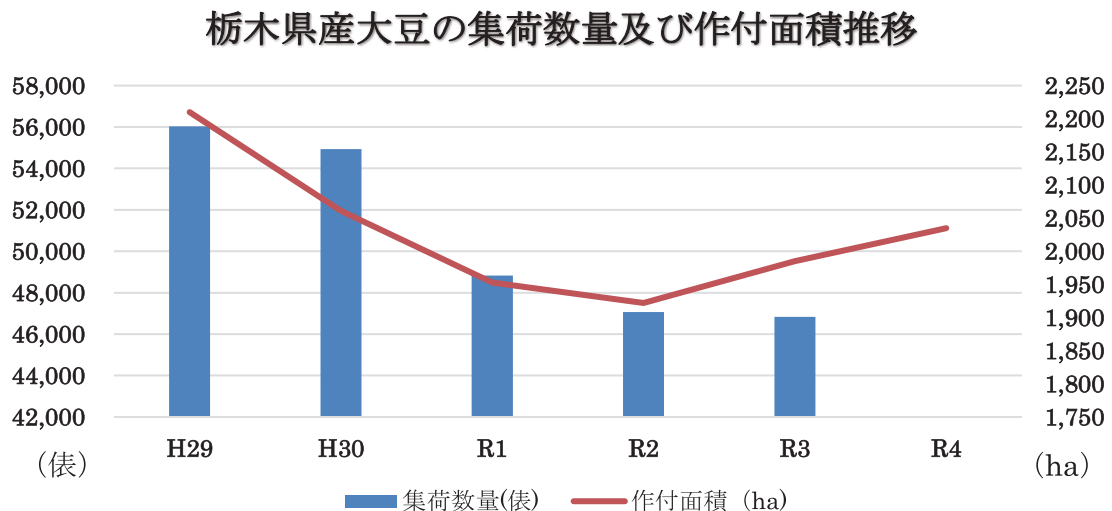


2. 令和4年産栃木県産大豆の生産動向について

栃木県の作付面積は約2,035ha(前年比103%)、生産者数は471名(前年465名)となり生産者数が増加し、作付面積も前年を上回りました。

今後も大豆作の維持拡大を図るとともに、安定多収生産の普及に努め、栃木県産大豆の品質向上と安定供給を実現していきましょう。

■栃木県産大豆の集荷数量及び作付け面積推移



管内生産者の皆様へ

栃木県産大豆が求められています！

- ・現在、県内では約2,800トンの集荷があり、その内約1,800トンが契約販売となっています。近年、栃木県産大豆を求める実需は増加しております。
- ・今後も栃木県産大豆は安定した需要が見込まれていますが、需要に対して供給が足りていないため、実需に対して十分な原料を渡せていない状況にあります。
- ・下記の通り、栃木県産大豆を使用した商品は増加傾向にあります。実需から求められている栃木県産大豆をより安定した販売につなげるためにも、作付面積の拡大にご協力をよろしくお願いします！

～ 栃木県産大豆はこのような商品になっています ～

むつみ ※栃木県産大豆契約栽培実需



○東京都八王子市に本社を置く、大豆、こんにゃく等を扱う大手加工メーカー。国内に4つの工場を持っています。

○国産大豆を使用した豆腐に「JAおやま産「里のほほえみ」大豆が使用されております。

○消泡剤不使用で、きめが細かく滑らかな豆腐が特徴です。

アサヒコ ※栃木県産大豆契約栽培実需



○埼玉に本社を置く、豆腐・油揚げ等の製造と販売を行う国内有数の加工メーカーです。

コープデリ ※JAなすの産大豆指定契約実需



○コープデリとして初の農産品目での「産直」取組になります。

JA全農とちぎでは、管内大豆の実需者への結び付けに積極的に取り組んでいます。実需者への安定供給に向けた作付面積拡大へのご協力をよろしくお願いいたします！

(公社) 米 麦 改 良 協 会 情 報

◆令和4年産大豆種子下見指導会等について

令和4年産大豆種子について、11月下旬に調整程度確認会を開催し、本年の水分・皆掛重量及び品質等について確認を行いました。また、県経営技術課より、大豆の各柄状況について収量・品質とも良い見込みとの説明がありました。

各種子場JAにて下見指導会が11月下旬～12月中旬に実施され、農産物検査員等の指導の下、各種苗生産者が調製を行っている製品について、入念な確認が行われました。なお、生産物確認及び農産物検査は12月下旬から実施されています。



◆大豆しわ粒種子試験の結果

大豆種子規格の見直しに伴い大豆しわ粒種子の品質に問題がないことを実証するため、宇都宮市内ほ場（試験面積0.3a）にて実証試験を実施しました。R4.6/21播種作業を実施し、R4.11/2収穫を行い収穫物の粒度構成を調査したところ、播種した種子がしわ粒の場合の収穫物と健全粒の場合の収穫物の粒度構成に大きな違いは見られませんでした。

表1. しわ粒由来の収穫物の粒度構成調査結果

収穫物の規格		播種した種子		
		健全粒(%)	しわ粒 (%)	兜しわ粒 (%)
整 粒	軽しわ粒以外	77.06	78.38	80.94
	軽しわ粒	5.81	8.75	7.56
被害粒	皮切れ粒等	13.38	8.31	7.38
	兜しわ粒	3.75	4.56	4.13
未熟粒		0.00	0.00	0.00
計		100.0	100.0	100.0



R4.6/21 播種作業時写真



R4.11/2 収穫作業時写真

◆令和4年産大豆種子の生産見込数量について

栃木県産大豆種子の規格は合格種子、準種子A及び準種子Bがあります。原則としては合格種子のみの確保を行っていますが、天候不順による作柄不良や急激な需要増加により種子不足が懸念される場合は、準種子A及び準種子Bの確保も実施しています。令和4年産大豆種子については合格種子に加え、準種子A及び準種子Bの確保を行います。

表2. 大豆種子の被害粒及び未熟粒等の最高限度と価格差について

規格	被害粒及び未熟粒等の最高限度	大豆種子生産者価格差	備考
合格種子	10%	—	
準種子A	20%	合格種子に対し90%	
準種子B	30%	合格種子に対し75%	しわ粒（軽しわ粒）の混入の最高限度は40%

令和4年産大豆種子については、着莢数は平年並～やや多く、収量・品質は良好の見込みとなっており、令和4年12月21日時点での生産見込数量は71,610kg（契約対比 約117%）となっています。一方、大豆種子の備蓄は枯渇していることから、次年度以降の大豆種子の安定供給のために、1袋でも多くの出荷をしていただきたく、種苗生産者並びに関係者の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

◆令和4年度第3回理事会を開催しました

令和4年11月9日（水）に第3回理事会がJAビル大研修室で開催されました。

協議事項の第1号議案「令和4年度残量処理計画（案）について」は、協議の結果、原案のとおり可決承認されました。

報告事項として、下記の7件の報告が承認されました。

- （1）令和4年度上期事業報告について
- （2）令和4年産麦類種子生産実績及び令和5年産用需給状況について
- （3）令和5年産麦類種子生産計画について
- （4）令和5年産麦類種子生産者価格について
- （5）令和3年産種子事故処理負担金について
- （6）令和4年産種子事故処理負担金について
- （7）就業規程の一部変更について



ほっとコラム

協会職員の渡辺大介さんに第一子（女の子）が誕生しました。少子化が進行する中、とてもうれしいニュースです。これからたくさんお米を食べてくれそうですね。



いおり
渡辺 彩織 ちゃん